

研修目的

呼吸器外科領域における代表的疾患（肺癌、気胸、縦隔腫瘍、膿胸など）の診断、周術期管理、手術治療の基本を学び、患者・家族および多職種と適切に連携しながら、安全で適切な診療に参加できる能力を身につける。あわせて、低侵襲手術、周術期呼吸リハビリテーション、胸腔ドレーン管理、周術期合併症への初期対応、進行肺癌に対する緩和的視点を含めた呼吸器外科診療の基本を理解する。

習得できるアウトカム（能力）

1) 必ず習得できるアウトカム（能力）

※習得することで診療科の研修を修了できます。習得できていないと評価を受けた場合は、研修期間が延長となります。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

- ・患者および家族に対して、礼節をもって共感的に接することができる。
- ・診療前後の手指衛生を適切に実践できる。
- ・診察、検査、処置の際に、患者に配慮した適切な声かけができる。
- ・医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士など多職種の役割を理解し、円滑に連携できる。
- ・臨床研修医としての立場と役割を理解し、安全を最優先に行動できる。
- ・進行肺癌や全身状態の低下した患者に対して、治療のみならず症状緩和や意思決定支援の重要性を理解し、適切な態度で診療に参加できる。

B. 資質・能力

- ・肺癌の症状、危険因子、主要な組織型、病期分類、標準的治療方針の概要を説明できる。
- ・気胸の病態、診断、治療方針、手術適応を説明できる。
- ・縦隔腫瘍および膿胸の代表的病態、診断、治療方針を説明できる。
- ・胸部レントゲン写真および胸部 CT において、正常構造と異常陰影を区別し、所見を適切に記載できる。
- ・気管支鏡検査の適応、基本的解剖、合併症について説明できる。
- ・肺機能検査、血液ガス分析、術後予測肺機能の考え方を理解し、肺切除術の機能的適応判断の基本を説明できる。
- ・肺葉切除術、区域切除術、部分切除術の違いと、それぞれの侵襲度および適応の考え方を説明できる。
- ・胸腔鏡手術（VATS）およびロボット支援手術（RATS）の基本的特徴と、開胸手術との違いを説明できる。
- ・術後胸腔ドレーナージの原理、観察項目、トラブル時の対応の基本を説明できる。
- ・周術期呼吸リハビリテーション、早期離床、喀痰喀出指導の重要性を説明できる。
- ・術後疼痛管理、輸液管理、代表的な周術期合併症とその初期対応を説明できる。
- ・診療録、退院サマリー等を適切に作成できる。
- ・カンファレンスで担当症例の要点を簡潔に提示できる。

C. 基本的診療業務

- ・指導医の指導のもと、入院患者の問診、身体診察、病棟回診に参加できる。
- ・指導医の指導のもと、胸部診察を実践できる。
- ・指導医の指導のもと、動脈血採血を実施し、結果を解釈できる。
- ・指導医の指導のもと、気管支鏡検査、胸腔ドレーナージ、創処置、ドレーン管理に参加できる。

- ・指導医の指導のもと、肺癌、気胸、縦隔腫瘍、膿胸に対する手術の助手を務め、閉創・縫合など基本手技を実践できる。
- ・術後患者に対し、深呼吸、喀痰喀出、離床、疼痛コントロールの重要性について助言できる。
- ・周術期に生じた異常所見や合併症の兆候を把握し、速やかに指導医へ報告できる。

2) 研修医の意向により習得できるアウトカム（能力）

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

- ・患者の価値観、社会的背景、治療負担に配慮し、退院支援や社会資源活用の必要性を理解できる。
- ・終末期または再発症例において、患者・家族とのコミュニケーションのあり方を学び、意思決定支援に参加できる。

B. 資質・能力

- ・肺癌診療における最新の薬物療法、集学的治療、低侵襲手術の位置づけを説明できる。
- ・担当症例について文献検索を行い、エビデンスに基づいて考察できる。
- ・学会発表用の抄録、スライド作成、症例報告または臨床研究の基礎的なまとめを行うことができる。

C. 基本的診療業務

- ・指導医の指導のもと、術前プレゼンテーションを行うことができる。
- ・指導医の指導のもと、胸腔ドレーン抜去や創部処置などの基本的手技を実践できる。
- ・指導医の指導のもと、周術期管理における検査・治療計画を立案できる。

具体的な指導方法・フィードバック方法（研修方略）

診療は原則として指導医とともにを行い、病棟、外来、検査、手術の各場面で直接指導を行う。毎朝のカンファレンス、術前カンファレンス、病棟回診を通じて、担当症例の評価、問題点、治療方針を確認し、継続的にフィードバックを行う。手術参加時には、術前に解剖、術式、注意点を確認し、術後に手術内容や改善点を振り返る。胸腔ドレーン管理や周術期呼吸リハビリテーションについては、実際の患者管理を通じて学び、その都度指導医から助言を受ける。ローテーション終了時には、到達状況を確認し、今後の課題について指導責任者または指導医と振り返りを行う。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	8:30-9:00 朝カンファ、回診、病棟	13:00-15:00 気管支鏡検査、病棟	回診
火	8:30-9:00 朝カンファ、回診、病棟	病棟回診・処置	回診
水	8:30-9:00 朝カンファ、手術、病棟	手術、病棟回診・処置	16:00-17:00 術前カンファレンス、回診
木	8:30-9:00 朝カンファ、手術、病棟	13:00-15:00 気管支鏡検査、手術、病棟回診・処置	回診
金	8:30-9:00 朝カンファ、手術、病棟	手術、病棟回診・処置	回診

指導責任者および指導医

指導責任者：新井川 弘道 教授

指導医：石橋 直也 准教授、野々村 遼 講師、佐々木 高信 助教、上田 和典 助教

学会発表・論文作成に対する指導体制

担当症例や臨床上の疑問をもとに、指導医が文献検索、抄録作成、スライド作成、プレゼンテーション方法について指導を行う。意欲のある研修医には、症例報告や臨床研究のまとめ方、論文作成の基本についても指導する。

2026 年 3 月 11 日
呼吸器外科 新井川弘道